

II . 研究活動概要

(1) 目 的

海外橋梁技術研究部会の活動目的は以下のとおりである。

- 1) 海外橋梁の設計・製作・架設に関する諸技術を調査研究する。
- 2) 海外技術の社会的背景やプロジェクトの進め方について調査研究する。
- 3) 海外技術と国内技術を比較検討し、我が国の技術へのフィードバックと海外物件対応への糧とする。

(2) 活動経緯

設計技術研究分科会では次のような頻度で研究集会を開催した。

昭和60年度 5回

昭和61年度 7回

昭和62年度 6回

昭和63年度 8回

最初の研究テーマは「コンサルタントの設計図面をもとにして海外橋梁の構造的特徴を把握し、我が国の技術との相違を明らかにする」ことに置いた。このテーマを当面は橋種別に研究することとし、分科会のなかに橋種別研究班を設けた。

昭和62年度からもこれまでの事例研究は続けるのに加えて、テーマをある程度絞って「継手」を分科会の共通研究テーマとした。橋種別研究班はそのまま存続させ、共通研究テーマをさらにブレイクダウンして橋種にふさわしい次のテーマを班別に研究することとした。

桁 橋 班	----	海外の鋼橋設計ハンドブックの調査
トラス・アーチ 班	----	疲労設計規定の比較
斜張橋 班	----	斜張橋ケーブル定着構造
吊 橋 班	----	塔の現場継手

なお後半2年間の橋種別研究班の構成は次のとおりである。

桁 橋 班	----	飯村（住金）、小林（三井）、柳沢（総合）、 田口（住重）
トラス・アーチ 班	----	堀内（川田）、内田（川鉄構）、小林（川鉄、 63.3までは春日）
斜張橋 班	----	八部（川重）、小野（松尾）、小泉（NKK）、 浅野（大日本、62.8より）
吊 橋 班	----	深谷（長大）、橋本（三菱、62.8までは渡辺）、 土屋（宮地、62.9までは興）